

市長定例記者会見 ２０１０年７月１３日

- ・ 日 時 平成２２年７月１３日（火）午前１１時００分～
- ・ 場 所 本館３階第１会議室
- ・ 記者数 １４人

議題 「第３回雨水ネットワーク会議全国大会２０１０ in 松山」について

「Matsuyama P's Festival 2010 supported by a-nation（マツヤマ ピース フェスティバル 2010 サポートッド バイ エイネーション）について

（市長）

それでは議題に入る前に、昨日からの大雨による被害状況について報告させていただきます。

活発な梅雨前線の活動によりまして、１２日７時１０分の大雨洪水警報発令と同時に、災害警戒本部を設置して対応に当たりました。１３時３５分の警報解除と災害の発生の恐れがなくなったことにより、同本部は１４時に廃止しました。しかし、夕方から再び雨が強く降り始め、１８時２０分に大雨警報が発令されたことから、再度、災害警戒本部を設置し、２２時１０分の警報解除と災害の発生の恐れがないことから、２２時３０分に災害警戒本部を廃止したところであります。

なお、今回の雨量状況につきましては、１２日明け方の降り始めからの雨量が１６６ミリメートルに上っており、時間最大雨量は、１２日６時から７時までの１時間に４７ミリメートルを観測しております。

現在判明している被害状況であります。住宅の床上浸水が３棟、床下浸水が３３棟、また、公共施設では、愚陀仏庵等の全壊など２件の土砂災害が発生しております。それから、床上浸水により２世帯５名の方が近くの集会所に自主避難されましたが、１４時には自宅へ戻られております。なお、これらの被害によるけが人等は発生しておりませんが、浸水した店舗内で清掃作業中であった５０代の女性が誤って転倒し、軽傷を負われました。

このように、近年の梅雨の特徴である局地的な集中豪雨により、全国各地で多くの被害が発生しておりますことから、梅雨明けに至るまでには、まだまだ注意を怠ることのないよう、市民の皆さんにも喚起してまいりたいと思います。

愚陀仏庵ですが、松山城長者ヶ平にある売店裏の東雲登城道南斜面におきまして、幅約３０メートル、高さ約６０メートル規模の土砂崩れが発生し、全壊するという災害が発生しました。応急措置として東雲登城道の通行止めフェンスや土のう設置、ブルーシートによる崩落箇所の保護などを行ったところであります。今後は、愛媛県など関係機関と協議をしながら、再発防止に努めてまいりたいと思います。

また、松山中央公園のプール、アクアパレットまつやまですが、昨日の大雨で機械室が浸水し、ろ過設備の不具合が生じたことから、現在利用を中止しております。復旧までに1週間程度かかる見通しですが、子どもたちの夏休みも近いことから営業が再開できるよう全力で対応したいと思えます。

それでは、まず本日の議題「第3回雨水ネットワーク会議全国大会2010 in 松山」について説明させていただきます。

本大会は、8月5日（木）・6日（金）の両日、松山市総合コミュニティセンターを会場に開催されます。この雨水ネットワーク会議は、雨水の有効利用等に関わる全国組織でありまして、近年、気候変動の影響もあり、渇水や洪水など、雨に対する危機管理が全国規模で問題となる中、平成20年8月に設立されました。そのメンバーとして、全国各地の市民団体、企業、研究機関、また行政からは、本市をはじめ雨水利用に取り組む全国の自治体が参画し、年1回の全国大会を通して情報交換や交流活動を行っています。雨水利用は、ダムや地下水への依存度を軽減し、水源の温存にもつながるのはもちろんのこと、ゲリラ豪雨や都市型洪水対策としても有効であり、また、地震等災害時の緊急用水やヒートアイランド対策など、幅広い効果がございます。

本市においても、雨水利用を水資源の有効利用策の一つと位置付け、これまでさまざまな施策を講じてまいりましたが、今後、より一層の促進を図るためには、市民の皆さんの関心や理解を得るための取り組みが特に大切であると考え、市民、企業、研究者、および行政からなる実行委員会を立ち上げまして、雨水ネットワーク会議全国大会を開催することといたしました。

本大会を通じて、市民の皆さんに雨水の有効利用のメリットを直接肌で感じていただき、これまで以上に雨水利用に関心を持っていただくとともに、市民や企業の新たなネットワークの形成につながればと期待しているところであります。

次に、「Matsuyama P's Festival 2010 supported by a-nation」について説明させていただきます。

ご案内のとおりこの春に第1期整備が完了しました城山公園堀之内地区でございしますが、国内最大級の野外フェスティバル「a-nation」の松山公演が、8月7日（土）にニンジニアスタジアムで開催されます。これに連動する形で、8月6日（金）、それから7日（土）に、松山の魅力を発信する真夏の祭典「Matsuyama P's Festival 2010 supported by a-nation」を開催いたします。

開催都市とa-nationが連携し、このようなイベントを開催するのは、全国的にも初めての取り組みとなります。行政・地元企業・大学といった、さまざまな方々の参画を得て、ここ松山で実現するに至ったものでございます。

そしてイベントのロゴですが、決まりましたので、ご紹介させていただきます。

「Matsuyama P's Festival」の名前の由来は、人々Peole（ピープル）、力Power（パワー）、そのかけらPiece（ピース）が集まって、平和Peace（ピース）を願い、元気で賑わいのある祭りにしようという意味です。

具体的には、「a-nation エリア」と「松山城・縁日エリア」の二つに大きく分けられたエリアで、a-nation 出演アーティストのステージや a-nation グッズの販売、過去の a-nation 映像やミュージックビデオなどを大型ビジョンで上映するシアターゾーンなどリアルに a-nation が体験できる内容をはじめ、さまざまな屋台や飲食店、子どもたちが遊べるアトラクションやゲーム、地元アーティストのステージなど、子どもから大人まで幅広い年齢層の方が、来て・見て・食べて・遊べる、盛りだくさんの内容になっています。

それでは「第3回雨水ネットワーク会議全国大会2010 in 松山」の詳細については、担当の方から説明させていただきまして、今お話しした「Matsuyama P's Festival」の詳細につきましては、会見が終わった後に、担当からレクチャーをさせていただきますので、よろしく願いいたします。

(質問)

愚陀仏庵は県の持ち物ではあるが、再建に当たって、市として何か協力する考えはあるか。

(市長)

まずは、所有者である県の方でどういう方針を立てられるのかですが、愚陀仏庵は松山にとっても文化的財産でもありますから、協力する姿勢というのは必要だと思っています。また、市には三庵めぐりという事業があります。このたびの全壊を受けまして、子規記念博物館内に愚陀仏庵の1階部分を復元した展示がありますので、当面はこちらを愚陀仏庵と見立てて、臨時的に三庵めぐりのコースに活用しようかと思っています。

それから、文化的なものの価値については、多くの方々が声をあげていただくということがとても大事であると思っていますので、例えば、松山俳句甲子園の関係者、あるいは俳人、俳句会の皆さん、そういった方々が声と同時に寄付を出していただくなど、理想論ですけども官民協力型で進めるような雰囲気が出てくれば、より多くの市民の皆さんの賛同も得られるのではないかと個人的には思っています。

(質問)

愚陀仏庵の年間の観光客数は。

(市長)

これは、愛媛県でないと分かりません。

(質問)

参議院選挙の結果が出たが、全国的には与党の過半数割れという状況と、愛媛選挙区で山本順三候補が大差で当選したという双方の状況をどう受け止めているのか。

(市長)

これは有権者の皆さんの判断ですから、それぞれの政党が掲げた政策、あるいはこれまで衆議院選挙以降の政治情勢というものを判断した民意の集約ではないかと思っています。

ただ心配しているのは、衆議院、参議院のねじれです。これは民意ですからいいのですが、ねじれた状況で今後の国会が始まって行きます。本当に今、地方の現場を抱えている立場からすれば、幾度となく申し上げてきましたが、地方財政の現実、それから歳出全体に占める民生費・衛生費の割合が50パーセントを超えているという現実、そしてまた経済対策等々含めた現在の情勢、こういったことを鑑みますと、国レベルでやるべきことは山ほどあるし、しかも非常に的確かつスピーディーな処理を迫られている案件が目白押しという状況になっています。

もう一つは大きな視野で見た場合に、各党が約束している地方分権について、この施策の展開をスピードアップしてほしい、しなければならないという現実もあると思います。ところが、国会がねじれたことによって、与党、野党どちらがどっちということではなくて、政局優先の国会の運営が今後続くとするならば、先ほど申し上げたような必要とされる施策への対応というのが、また遅れていくという可能性が出てきます。ですから、今最も心配しているのは、この状況を受けて、そういった事態が起こるのではないかという懸念です。これは党派を超えて今の現実というものを踏まえて、ともかく話し合いをしながら、物事を進めていくということに没頭していただきたい、政局はもう後回しにしていいただきたいという気持ちだが、地方の現場を預かっている立場の我々には、非常に強く広がっています。

（質問）

愛媛選挙区の結果については。

（市長）

国政選挙ですから、愛媛もその一つです。同じことだと思います。

（質問）

県内では今度、愛媛県知事選挙があるのではないかとされているが、新しい知事には、どんなことに取り組んでほしいか。

（市長）

一般論として、先ほどの繰り返しになるところもありますが、国と地方の役割分担を進めるというのは、この国の未来を切り開いていくためには待ったなしの状況ですから、この施策の推進のために本当に地方の立場に立って、行動、発言を強くできる人が必要な時代になっていると思います。

もう一つは、やはりこれは市長の立場も同じなのですが、まちづくりや地方の課題というのは、案件ごとに賛否を得ながら話し合いをし、問題を解決していくというのが地方におけるところのベースです。しかし、国政というのは今回の選挙でも明らかになったように、政権選択、参議院は政権選択に直結していませんが、その趣旨で動いてしまうという異質なステージにあります。ですから、このような違いというものを、地方の政治に携わる我々、これは知事だけに限らず市町村長全員同じだと思いますが、地域の政策課題と国の政権選択の

対立軸というのは全く違います。そこをやはり感じとれるリーダーというのが必要になってくるのではないかと考えています。

（質問）

全国知事会などで積極的にいろいろ活動するような形になるのか。

（市長）

そうですね。全国市長会も同じなのですが、その会がすべてかといったら決してそうではないです。やはり公の機関であるが故に、発言も少し抑え気味なところが出るケースもあります。全国知事会の場合は４７という限定した数ですが、全国市長会の場合になると７００から８００ぐらいの数で、市の規模となると人口が３万人の市もあれば、３００万人の市もあり、さらに規模によって抱えている課題も違うので意見を一本化する、集約するというのはなかなか難しいところもあります。ですからそのためには、タイムリーに政策提言のために、例えば前回の首長連合のような動きをせざるを得ない状況が生まれる可能性が高まってきていますので、やはり必要なもの、正しいものを主張するというような強さを、我々首長一人一人が持たなければいけない時を迎えているのではないかと考えています。

（質問）

今回の参議院選挙で消費税の論議が争点の一つになったが、市長は地方消費税という観点も含めて、今後、消費税をどうしていくべきと考えているのか。

（市長）

消費税というのは国民の皆さんに負担を求めるという側面がありますから、そこに至るまでに、やるだけのことはやるという姿勢をしっかりと示していかなければ、なかなかご理解いただけない政策課題だと思います。そのためには、これまでに何度も申し上げてきたのですが、まず自らが身を切る姿勢を示すという覚悟を示さなければならないと思います。それは国会議員の定数削減、大幅な削減であり、あるいは世襲制限であり、あるいは企業団体献金の問題であり、まずこうした姿勢を示さなければ、なかなか聞く耳を持ってくれない方が多いと思います。

その次に、今申し上げた課題は自分たちのことですから、やろうと思えばすぐにできるはずですが、まず、すぐできることをすぐに実行して、次に大変な作業ですが、徹底した行財政改革を行う。まだまだスピード感が足りないように感じますが、そこで無駄を省くという姿勢を徹底的に国民の皆さんに示す。そして次に、なぜ消費税を上げなければならないのか、それは、これまで積み重ねてしまった借金もあるでしょうし、それから高齢化社会を迎えるに当たっての支出の増加要因もあるでしょうし、それから当面の経済情勢への対応による支出の増加要因もあるでしょうし、そういう必要な金額を示して、その足らざるところをどうでしょうかという、この３段階を経ないとなかなかご理解はいただけないのではないかと考えています。

ただ、すでに国の借金がとてつもないスケールまで到達しているのは、誰しもが感じてい

るところでありますから、今申し上げたようなことを前提として、その後どうするのかということは、やがて議論しなければならないだろうと思います。

また、地方分権の角度から言っても、所得税と住民税の税源移譲のシフトは既に行っていますから、地方財政を充実させる一つ的手段としては、他にゼロとは言いませんが、地方消費税という方法が一番の課題になってくるのは間違いないと思います。ですから、その議論をする中で、高齢化社会が進展するから年金の財源、あるいは福祉の財源など、ただそれ一辺倒の議論しかされていません。でも消費税というのは、今申し上げたような地方消費税の問題もありますから、先ほどの前提の議論の後に、当然のことながら地方消費税の問題も含めた議論をするべきではないかと思います。

（質問）

愚陀仏庵について官民協働という話があったが、市民活動の中で、復元を求める動きが起きたときに、市長としてサポートや支援をする考えはあるか。

（市長）

市長としては無いかもしれないですが、個人としてはあるかもしれないです。市長という立場を離れて、私個人としてみた場合には、愚陀仏庵の価値というのは非常に高いと思っていますから、関係者やそれを理解する人たちが、そのような活動を起こしてくれたらという期待感があります。行政だけで、という時代ではないので、我々から突破口をとというのは非常に難しいかと思っています。そういう価値に気付いている方、あるいは関係者の皆さん、松山はやはり俳句のまちですから多いと思います。私は必ずそういう声が出始めるのではないかなと思っています。

（質問）

参議院選挙で、日本創新党は客観情勢から見て惨敗したといえると思うが、それについての率直な感想は。

（市長）

私は日本創新党とは直接関係ないのですが、友人が新党を立ち上げて頑張るということで、全国から20人以上の首長が頑張れというエールを送る中の一人ではありましたが、具体的に選挙運動をしたわけではありません。ただ冷静に見ると、やはり国会議員がいないとマスコミの皆さんからすれば政党として認知しないですよ。だから例えば紙面においても、テレビにおいても扱いが無いじゃないですか。あの辺は仕組みとしてどうなのか、という疑問を感じました。やはり政党として立候補しているわけですから、その主張を国会議員が居ようが居まいが、並べるということは必要なのではないかなと思いました。そうでないと、選択する国民に主張が届かないと思いますので、その辺りは考える余地があったのではないかなという感じはしました。

（質問）

確認だが、愚陀仏庵の再建について、官民協力の中で寄付が望ましいという先ほどの話だが、市として財政協力は今のところ選択肢としては無いということか。

（市長）

これは県の持ち物なので、まず、そちらの意向も考えないといけません。だからあくまでも先ほど申し上げたことは、一つの絵図面と受け止めていただいた方がいいと思います。

（質問）

県から何らかのアプローチがあればということか。

（市長）

もちろん、あれば検討します。ただ、昨日の県知事のコメントにも、やはり市民の皆さんの…ということ言われていたので、恐らくイメージとしては同じなのかなという気はします。

（質問）

県はなるべく早く再建をしたいというところではあると思うが。

（市長）

その点はどうか分かりませんが、例えば8月に松山俳句甲子園がありますので、そういう大会の中でそうした声上がるのかどうかも注目してみたいと思います。